

果実販売動向

販売課 米澤松太



10月の果実動向は数量増の単価
安で推移しました。ミカンについ
ては、極早生が始めから食味の
問題と潤沢な出回りから厳しい販
売が続く、加えて中旬以降は降雨
の影響による品質低下も散見され
たことから、終了まで厳しい販売
が続きました。柿についても、豊
作基調で推移したことから、値ご
ろ価格で売り場を拡張しましたが、
食味の問題による末端消費の不振
や降雨による品質低下から市場滞
荷が多く、厳しい販売となりました。
果実全般に潤沢な流通量のな
か、安値基調の野菜を中心に特売
が組まれていることから、比較的
単価の高い果実は荷動きの鈍い状
況が続きました。

リンゴについては、各県さまざま
まな中生種が出揃う中に於いて、
数量・品質・食味が安定している
早生ふじが主力のアイテムとな
り、中玉以上については大きな値

崩れもなく推移しましたが、小玉
果については比率が高いことから
低迷し、平均価格を下押しする要
因となりました。トキについては
台湾を中心とする輸出向けへの引
き合いが強いことから、9月中旬
より出荷されましたが、46玉を中
心に荷動きが鈍く、また、米国産
の輸入が遅れていることから早生
ふじも輸出されましたが、同様に
小玉果を中心に荷動きが鈍い状況
となりました。競合果実が潤沢に
流通し低迷しているなか、リンゴ
総体の売場は大きくありませんで
したが、海外向けが多いことから
国内流通量が抑制され、比較的相
場は安定している方です。

今後、ミカンについては、極早
生が順次終了し、11月中旬より各
県早生品種が出揃う見込みです
が、降雨の影響による製品化率の
低下や、後半の品種に移行するほ
ど生産量が少ない予想から相場は

安定すると考えられます。柿につ
いても、奈良・和歌山産が台風21
号の影響による減収や品質低下、
品種が更新されることによる総体
量の減少に伴い、相場は安定する
ものと考えられますが売場は縮小
傾向にあります。競合果実が数量
や品質に安定感を欠く中、リンゴ
の売場における占有率は高くなる
ことが予想されますが、リンゴ全
般に小玉傾向や場所によっては隔
年障害がみられることから、大幅
な減収が予想されます。年内は黄
色品種を中心に海外企画、「飛馬
ふじ」「みつまるくん」を中心に
国内ギフト企画、年明けは春節向
け輸出企画に加え、小玉の企画を
積極的に取り組み、相場の底上げ
とします。



全農あおもりデータ・11/24累計

品 種	サンジョナ	早生ふじ	きおう	ト キ	つがる	その他	計
単 価 (円)	2,870	2,857	2,387	2,558	2,353	2,706	2,530
前 年 比 (%)	86	87	97	90	91	91	90
数 量 (箱/10kg)	1,372	574,079	137,066	156,448	1,089,465	115,991	2,074,421
前 年 比 (%)	78	96	93	130	106	84	102